

北海道胆振 東部地震を 受けて

平成30(2018)年9月6日に発生した北海道胆振東部地震では、水道施設が被害を受け、一部地域で断水が発生しました。
札幌の水道ではこのような経験を踏まえ、さまざまな災害対策を進めています。

災害により強い水道を目指して

停電への対応

浄水場やポンプ場など水道水の供給・管理に関わる施設においては、非常用発電設備を備えていたため、浄水処理や水質検査、配水情報の管理等を支障なく行うことができました。

一方で、非常用発電設備がない一部の水道局庁舎等では、問い合わせ対応等に支障をきたしました。このため、長期間の停電に備えて、非常用発電設備等の整備を実施しました。



マンションにお住まいの方は、下のコラムもチェックしてね！

配水管の耐震化

地震の影響により、市内各所において配水管が抜け出して漏水する被害がありましたが、耐震化した配水管は被害がありませんでした。

今後も、市内の配水管の耐震化を進めていき、地震時の漏水被害を最小限に抑えることに努めていきます。(P.19参照)



緊急時の水の確保

清田区・厚別区一部地域における断水及び停電によるマンションの断水に対応するため、緊急貯水槽及び緊急時給水管路(P.21参照)等を使用し、最大73か所に給水所を開設しました。

今後も、緊急貯水槽の近隣住民向け説明会の開催などを通じて、よりスムーズな応急給水体制の構築に取り組むほか、広報誌や各種イベントを通じて、飲料水の備蓄を継続的に啓発していきます。



小さな子どもや高齢の方がいる世帯は、特に飲料水を備蓄しておきたいね



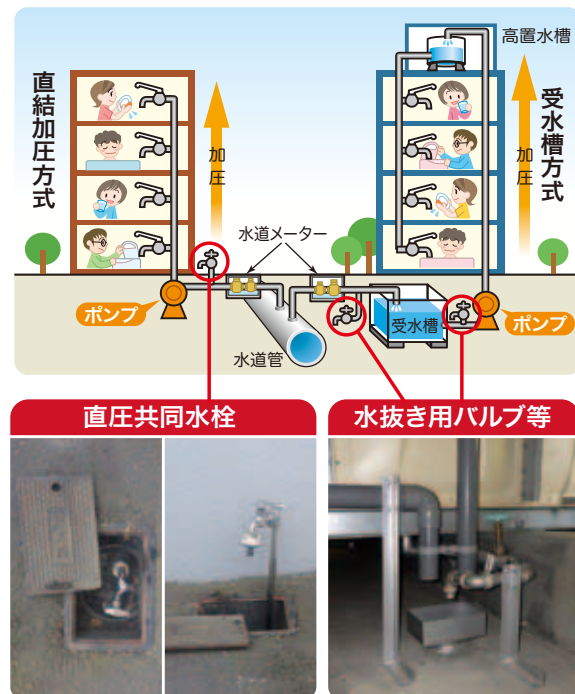
マンションにお住まいの方は、 停電による断水に備えましょう！

北海道胆振東部地震では市内全域で長時間の停電が発生し、電動ポンプを使用して上層階の各戸へ給水する「直結加圧方式」と「受水槽方式」を採用しているマンション等では、停電により断水が発生しました。

マンション停電時の給水方法は？

- 「直結加圧方式」の建物：敷地内に非常給水用として設置している「直圧共同水栓」からの給水が可能です。
- 「受水槽方式」の建物：受水槽周辺の「水抜き用バルブ」等から給水できる場合があります。

停電に備えて、お住まいのマンションの給水方式と、「直圧共同水栓」や「水抜き用バルブ」等の位置を事前に確認しておきましょう！
これらの水栓を使用する際はお住まいのマンションで決められた管理方法に従いましょう。



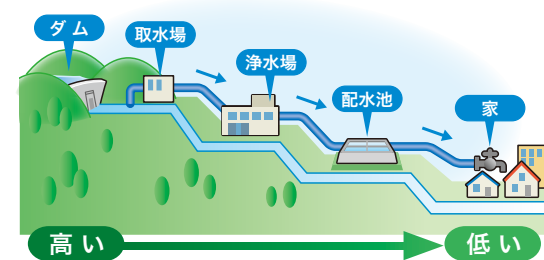
環境保全の 取組

環境への負荷をできるだけ
少なくしています

きれいな水をつくり皆さまにお届けするためには、燃料や電力などのエネルギーや資源を必要とします。札幌の水道では、環境への負荷をできるだけ少なくするよう、さまざまな取組を行っています。

地形を活かした施設づくり

札幌市では川の上流や丘陵地などの高い場所に浄水場や配水池などを建てています。その標高差を利用する「自然流下方式」で、全給水量の約8割を配水しており、ポンプ施設などのエネルギー使用量を抑えています。



省エネルギーの推進

照明のこまめな消灯や室温管理の徹底などの省エネ活動に積極的に取り組んでいます。
また、複数のポンプ場を1つにまとめることでポンプ台数を減らすなど、効率化に努めています。

リサイクルの実施

水道メーターや消火栓の再利用、水道工事で発生する土や木材の再資源化など、リサイクルにも積極的に取り組んでいます。



再生可能エネルギーの活用

水力発電

昭和59(1984)年度に藻岩浄水場において水力発電設備を設置し、年間約300万kWh(約900世帯分に相当)を発電しています。

また、令和4(2022)年度には平岸配水池にも水力発電設備を設置し、年間約400万kWh(約1200世帯分に相当)を発電しています。

発電した電力は、それぞれの施設や電気自動車などで使用しているほか、余剰電力は売電しています。



平岸配水池の水力発電設備

太陽光発電

庁舎の屋上に太陽光発電設備を設置しており、発電した電気は全て各庁舎にて使用しています。

施設名	導入年度	定格出力(kW)	発電量(kWh/年)
配水センター	平成22(2010)	10	12,000
川沿庁舎	平成29(2017)	25	31,000
豊平庁舎	令和3(2021)	15	19,000



取組の報告

水道局の環境保全についての取組や、それに関する経費などをまとめた環境報告書を水道局ホームページで紹介していますのでご覧ください。
※代表的な掲載項目: CO₂排出削減量、環境保全の取組に要した費用と効果額



環境報告書



札幌水道 環境報告書 検索